令和６年能登半島地震被災地の皆様に心よりお見舞い申し上げます。

広報 中部の森林（もり）

写真：「ピラミッドピークから見た穂高連峰と朝日」
(中信署、飛騨署管内)

私の森語り「川を育む森を思う」
豊田市矢作川研究所　主任研究員　洲崎 燈子

令和６年　年頭のご挨拶
・中部森林管理局長　今泉 裕治
各地からの便り
・素材生産事業の現地検討会を開催　ほか
シリーズ
・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、
秘蔵写真・今は昔の林業

※令和６・７年度「国有林モニター」の募集のお知らせ！

国民の森林・国有林
林野庁中部森林管理局
2024/No.238

お役に立ちます国有林
―地域課題の解決に向けて―

中部森林管理局長　今泉（いまいずみ）　裕治（ゆうじ）

令和六年　年頭のご挨拶

まず初めに、元日の夕刻に発生した能登半島地震で亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げますとともに、被災された全ての皆様にお見舞いを申し上げます。中部森林管理局としましては、管内国有林における被害状況の迅速な把握に努め、被災を確認した場合には早期の復旧に努めていきます。また、民有林等についても、地方自治体と連携して、被害の把握及び復旧に向け可能な限りの支援を行っていく考えです。

当局管内には急峻・複雑な地形と脆い地質を有する森林も多く、今回のような地震のほか、台風等の豪雨の際にも度々被害を受けてきました。一年の初めの日に大きな自然災害に直面し、今後も幅広い関係機関や関係団体・事業者そして地域住民の皆様と連携を密にし、国有林はもとより民有林も含めた地域全体の防災・減災・災害復旧対策に万全を期さねばならないとの思いを新たにしたところです。

当局においては、こうした防災・減災分野に限らず、国有林の管理経営を行う中で培ってきた技術・ノウハウや組織力、国有林の多様なフィールド等を活かして、民有林の管理や民有林材を含む木材の需要拡大、さらには森林・林業以外の分野でもお役に立てるよう、国有林における取組のご紹介や関係者のニーズの把握、連携の呼びかけを積極的に行ってきました。

例えば、令和二年から本誌にシリーズ「お役に立ちます国有林」と題して民有林等で活用可能な取組事例を掲載し、当局ホームページでも公開してきており、昨年三月には、データを更新するなどホームページの内容を充実させました。また、同じく昨年三月から、「森林・林業に役立つＷｅｂ勉強会～現場で活用できる知識や情報・技術～」と題し、民有林関係者向けの情報提供及び人材育成の取組を続けてきましたし、同四月から六月にかけて、森林土木分野における工事等の省力化・効率化に資する「新技術・新工法」の提案の募集と応募企業からのプレゼンテーションを開催しました。さらに、同七月から八月にかけて、初心者でも効率良くニホンジカを捕獲できる「小林式誘引捕獲法」の導入・普及を目指した現地検討会を管内三県（長野、岐阜、愛知）の国有林において開催し、多くの関係者の皆様に参加いただきました。

こうした中、本年には「森林環境税」の課税が始まることとなっており、民有林における「森林経営管理制度」の推進など市町村の取組の一層の進展が期待されていますし、人工林の主伐が進む中でエリートツリー等の成長に優れ花粉も少ない苗木による確実な再造林と獣害対策が一層重要になってきています。また、アフターコロナの多様な国民ニーズに対応して森林空間を観光や健康づくり等に活用する機運も高まってきています。

このように、森林・林業に関わる課題やニーズが一層多様化・高度化することが予想されるところであり、当局としましても、地元自治体をはじめとする関係者の皆様との連携を強化しながら、地域における諸課題の解決のための取組を進めていきたいと考えています。

今年も、お役に立ちます国有林！

素材生産事業の現地検討会を開催

【愛知森林管理事務所】

十月三十一日、北設楽郡設楽町の段戸国有林の素材生産事業地において、民有林や木材市場の関係者及び素材生産請負事業体を対象に、「高齢級・大径木の効率的な伐倒・搬出・採材方法」をテーマとした現地検討会を開催しました。

本事業地は、林齢が百年生を超えるヒノキ人工林で、ここから搬出される良質な丸太については、「段戸ＳＡＮ」のブランドで販売を行うこととしています。

検討会では、大径木の伐倒について、事業を受注している事業体から、安全で、かつ割れが入るなど木材の価値を低下させない方法の説明を受け、実演していただきました。

また、木材は長さや太さによって、取引される単価が変動するため、木材市場の関係者から、木材の需要動向を踏まえた採材（丸太に切り分けること）について指導していただき、実際に伐倒された木を教材とし、参加者間で採材の検討を行いました。

なお、この現場から搬出された丸太については、十一月十七日に東海木材相互市場で開催された「全国優良材展示会」に出品し、高い評価を受け、販売することができました。

当事務所では、今後も計画的に高齢級林分からの木材供給を行っていくこととしていますが、長い間、大切に育ててきた木を安全かつ効率的に、品質にも配慮し伐倒すること、木材市場の需要動向を踏まえた丁寧な採材により販売する取組を林業関係者間で共有できたと考えており、引き続き「新しい林業」の実現、収支のプラス転換に向けて努力していきたいと考えています。

大径木の伐倒方法について検討する参加者

新しい林業の展開に向けた現地検討会を開催

【北信森林管理署】

十一月二十日、「新しい林業の展開に向けた推進チーム」による現地検討会を下水内郡栄村の鳥甲国有林において開催しました。

本推進チームは「従来の施業等を見直し、開発が進みつつある新技術を活用して、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする」の趣旨のもと、当署職員で構成し、本年度から活動しています。

管内には現在、コンテナ大苗植栽地における下刈回数削減に向けた実証モデル地として、黒姫森林事務所管内に二ヶ所、戸隠森林事務所管内に二ヶ所を設定しており、今回、新たに水内森林事務所管内に設定し、雪が降り積もる中、植栽木の成長調査等を行いました。

また、これに先立ち、十月三十日には「令和五年度生産性向上実現プログラム推奨事業地現地検討会」を飯縄山国有林の生産請負事業地において開催しました。

当日は、長野県及び長野市の林務関係者、管内の国有林内で生産請負事業を行っている事業体等、約三十名が参加し、本事業地の請負事業体から作業システムや生産性向上に向けた取組状況等について説明を受け、更なる生産コストの低減に向けた検討を行いました。また、意見交換では、当署管内の各生産事業地の取組や問題点、要望や意見等、様々な事項について、参加者の方々から発言していただきました。

検討会の結果を「新しい林業」の推進に役立てるとともに、今後も林業事業体や自治体関係者の方々の、生の声を聞く機会を定期的に設けてまいりたいと考えています。

植栽したコンテナ苗の成長調査

甦れ！初代大ヒノキ歩道
～見学コース整備に向けて～

【東濃森林管理署】

十一月二十二日、十二月八日、当署管内の加子母裏木曽国有林において、NPOつけち、裏木曽古事の森育成協議会によるボランティア活動が行われました。

当日は、毎年多くの方が訪れる「二代目大ヒノキ見学コース」の整備に加え、「初代大ヒノキ見学コース」の整備計画を関係者で実際に現地を見ながら検討しました。

初代大ヒノキは以前、本広報誌（令和三年一月号）でも紹介しましたが、切り株の直径が二メートルを超える推定樹齢九五〇年生のヒノキで、昭和九年の室戸台風で折損し、その後枯損が進み、昭和二十九年に学術参考のために伐採されたものです。

幸いにも、初代大ヒノキまでは、過去に使われていた歩道が現存しており、朽ちた丸太橋の架け直しや階段のつけ直し等を行い、林道口や歩道の分岐点に案内看板を設置することで見学コースを整備できることが分かり、早速、ボランティア団体から「冬の間に案内看板の作製を行います」との意見が出されるなど、新たな取組が動き始めました。

現地検討終了後には、参加者から「歩道整備が終われば、次は初代大ヒノキを風雪から守るために設置されている屋根の葺き替えもやりましょう」「初代大ヒノキ見学用の新しいガイドマニュアルを作成しないといけないね」など、力強い意見も出されました。

縁の下の力持ちとなって、地域の国有林を支えていただいている皆様方の取組や熱意に心より感謝いたします。

初代大ヒノキの切り株

国有林モニター現地説明会を開催

【企画調整課・東濃森林管理署】

十一月二十八日、東濃署管内において、十二名の国有林モニター参加のもと、現地説明会を開催しました。

国有林モニターの任期は二年であり、昨年度は木曽署管内において森林整備や木材生産、木材の販売や利用について視察し、今年度は治山事業や国有林の利用状況など、昨年度と違う視点で国有林野事業についての理解を深めていただきました。

当日は、中津川駅に集合し、マイクロバスにて「猿沢治山事業地」に向かいました。この治山事業地は、山腹工を大正十四年から、渓間工（治山ダム）を昭和十三年から実施しています。現在、国土強靭化を図るために進めている渓間工の施工状況を見学し、治山事業の目的や効果について説明しました。

次に、東濃署の会議室において「国有林みどころビューマップ」等のGoogleストリートビューを活用した国有林内の仮想的な散策について紹介し、東濃署のウェブサイトをご覧いただきました。

その後、加子母裏木曽国有林にて「五色沢治山事業地」の大規模な山腹崩壊の復旧状況を遠望しながら説明し、最後に「協定締結による国民参加の森林づくり」の一つである「裏木曽古事の森」を案内し、協定を結ぶ裏木曽古事の森育成協議会の活動などを紹介しました。

天候が不安定で、雨が強く降る場面もありましたが、「治山事業の役割や効果がよく理解でき、勉強になった」「古事の森で育った木材の価値を知りたい」など、国有林モニターの皆様からいただいたご意見、ご感想を今後の国有林野の管理経営に活かすよう努めてまいります。

裏木曽古事の森見学

「木曽悠久の森」管理委員会を開催

【計画課、木曽森林管理署、木曽森林ふれあい推進センター】

十一月二十九日、木曽署多目的ホールにおいて、令和五年度第一回「木曽悠久の森」管理委員会を開催しました。

「木曽悠久の森」は、世界的にも希少で貴重な存在であるヒノキ、サワラ等の木曽五木を含む温帯性針葉樹林を保存・復元するため、木曽地方の国有林に設定している「森林生物多様性復元地域」の愛称です。

天然林の保存を図りながら人工林を天然林に誘導していく取組について、学識経験者や地域関係者等で構成される管理委員会を設置し、ご意見をいただきながら取組を進めています。

今回の管理委員会は、

①令和七年に開催予定の御杣始祭をはじめとする伊勢神宮式年遷宮の行事に係る特殊用材（御用材）の伐採計画案

②赤沢自然休養林の散策路（駒鳥コース）において、木橋の老朽化により通行止めとなっている箇所の迂回路の設置

③ヒノキの古い根株を酸素同位体比分析することにより、樹齢を推定する取組

の三つを議題とし、公開で行いました。

管理委員会での審議に先立ち、委員による現地調査を行った上で、植生等に与える影響、取組の意義や方向性等について議論を行い、いずれの議題も出席委員全員の賛成により承認されました。

管理委員会の様子

なお、①については、前回（平成十七年）の御杣始祭の伐採跡地にて、伐採から二十年弱を経過して、サワラやヒノキ、広葉樹など多様な樹種による天然更新が順調に推移している状況を見ていただきました。

また、③の根株の年代推定については、これまでの取組により、根株が一六七〇年頃に伐採されたものであることや、根株の伐採時の樹齢が千年と推定されたことで、木曽ヒノキの寿命は千年より長いことが示唆されていますので、今後、年代推定のできた根株を赤沢自然休養林の散策ポイントとして来訪者に見ていただけるよう整備を進めることで、「木曽悠久の森」の価値や保存・復元の取組の必要性をＰＲしていきたい考えです。

「木曽悠久の森」の取組は、数百年の超長期に及ぶものです。引き続き、管理委員会の委員や地域の関係者等から意見やアドバイス等をいただきながら、一歩一歩、着実に取組を進めてまいりたいと思います。

迂回路設置予定箇所の現地調査

御杣始祭予定箇所の現地調査